

植坂先生の指導助言より

木島小にて、1年生算数「かたちあそび」の授業の参観をしました。授業では、子どもたちが実際に箱や筒などの具体物を操作したり、観察したりしながら学びを深めていくすがたが印象的でした。

単元の流れ

- ①②箱などの具体物を使って、積んだり、転がしたりする活動を行う
- ③箱などの具体物を観察し、特徴ごと（はこ・さいころ・ボール・筒）に分類する。（本時）
- ④箱などの面の特徴をとらえる。

本時では、「しかく」「まる」「ころがる」「うえにものをつめる」などの基準を教えた後、グループ活動でいろいろな立体（パイの実・コアラのマーチ・サランラップ・チップスターなど）を仲間分けしていました。さらにチャレンジ問題では、「さいころの形に近いじゃがビー」と「平たいつつの形のチーズの箱」をどう分類するかを考えていました。

教えて考えさせる授業のポイント

①説明したことを使って解ける確認問題、少し難易度をあげた深化問題

確認問題の答えの理由を聞かれたときに、説明の言葉を使って説明できるようにする。

②教えることは何かを吟味

特に1年生では、学習内容をどのように積み重ねていくか、どの単元や学年につながっていくかを意識することが大切。今回の授業では「分類の基準」を教えるのではなく、「基準に合わせてものを分類する」ことを教えるのも有効だったのでは、という提案がありました。

中央小での実践に生かしたいこと

1. 「知識」から「活用」へ

確認問題で理解を確かめ、さらに深化問題で応用的な問題に挑戦することで、子どもが「考える学び」にしていく。

2. 単元間のつながりを意識

低学年では特に、形や数、言葉といった基本的な学習が上学年の学びに直結します。今回の「形の分類」も、算数だけでなく理科や生活科における観察・分類の学習へと広がっていきます。

3. 子どもの言葉を引き出す

教師が与えた説明語だけでなく、子ども自身の表現を受け止め、学習に位置づけることで、学びが「自分のもの」になります。